

事業実績（研修）報告書

【期 間】

令和7年10月9日（木）～10月10日（金）

【視察先】

栃木県宇都宮市

第87回全国都市問題会議

（成熟社会における持続可能な都市づくり）

—コンパクト＋ネットワークの推進—

【参加者】

大塚 久美子 山本 栄児

成熟社会における持続可能な都市づくり

—コンパクト+ネットワークの推進—

【日時】 令和7年10月9日（木）9時30分～16時30分
10月10日（金）9時30分～11時50分

【場所】 宇都宮駅東口（ライトキューブ宇都宮）

1. 研修の概要

宇都宮市は、人口減少・少子高齢化が進行する成熟社会に対応するため、従来の都市拡大型のまちづくりから転換し、都市機能の集約と公共交通ネットワークの強化を柱とした「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方に基づく都市政策を推進している。

これまでの我が国の都市は、高度経済成長期以降の人口増加を背景に、市街地の外延的拡大を続けてきた。しかしその結果、中心市

街地の空洞化や空き家・空き店舗の増加、さらには公共施設やインフラ維持にかかるコストの増大など、いわゆる「都市のスポンジ化」と呼ばれる課題が顕在化している。

宇都宮市では、こうした課題に対し、都市機能を中心部や拠点へと集約し、公共交通によって各拠点を結ぶことで、持続可能な都市構造への転換を図っている。その象徴的な取組がLRT（次世代型路面電車）であり、都市の骨格となる公共交通軸を整備することで、自動車依存からの脱却と人の流れの再構築を目指している。



【写真：視察参加議員】



【写真：第87回全国都市問題会の議子】

今回の視察地である「宇都宮駅東口交流拠点施設（ライトキューブ宇都宮）」は、こうした都市政策の一環として整備された拠点施設であり、単なるコンベンション施設ではなく、都市機能の集約と交流人口の創出を担う重要な役割を果たしている。

本施設を核として、駅東口エリア全体の活性化が図られており、都市再生と拠点形成の実践例として位置付けられるものである。

2. 研修内容

今回の研修では、「成熟社会における持続可能な都市のかたち」をテーマに、人口減少・少子高齢化が進行する中で求められる都市の在り方について、理論的背景と実践事例の両面から理解を深めた。

まず、成熟社会における都市の現状として、これまでの人口増加を前提とした都市の外延的拡大が限界を迎えていることが示された。高度経済成長期以降、我が国の都市は郊外への住宅開発や商業機能の分散を進めることで発展してきたが、その結果として中心市街地の空洞化が進行し、空き家や空き店舗の増加、生活サービス機能の低下といった課題が顕在化している。

また、都市の拡大に伴い、道路や上下水道、公共施設などのインフラ維持コストが増大している一方で、人口減少により税収の伸びが期待できない中、これらを従来通り維持していくことは困難な状況となっている。こうした状況は「都市のスポンジ化」として指摘されており、全国の地方都市に共通する構造的課題であることが理解された。

このような背景から、都市の持続可能性を確保するためには、これまでの「拡大」から「再編」へと発想を転換し、都市機能を一定のエリアに集約する「コンパクトなまちづくり」が求められている。同時に、単に機能を集めるだけでなく、公共交通を軸として各拠点を有機的に結び、人の移動や生活動線を再構築する「ネットワーク化」が不可欠であり、この両者を組み合わせた「コンパクト＋ネットワーク」の考え方が重要であることが示された。その具体例として整備されたのが、宇都宮市の LRT(次世代型路面電車)である。

さらに、こうした課題に対応するため、これまでの行政主導による都市整備に加え、住民や民間事業者が主体的に関わるまちづくりの重要性についても理解が深まった。地域における小規模な取組であっても、それらが積み重なることで中心市街地の再生や都市の魅力向上につながる可能性があり、行政はそれらの活動を支援し、連携を図る役割を担うことが求められている。

また、今後の都市政策においては、「なぜコンパクトなまちづくりが進まないのか」という視点ではなく、「どのようにすれば実現できるのか」という前向きな発想への転換が重要であることが示されており、実現に向けた具体的手法の検討が求められる段階にあることが確認された。



【写真：宇都宮市 LRT
(次世代型路面電車)】

これらの理論的背景を踏まえたうえで、宇都宮市における実践事例として、公共交通を軸とした都市構造の再編や拠点整備の取組を確認した。同市では、LRT の導入により公共交通ネットワークを強化し、都市機能の集約と人の流れの再構築を図るとともに、拠点施設の整備によって交流人口の創出や中心市街地の活性化を推進している。

本研修を通じて、成熟社会における都市の在り方は、単なる物理的な整備にとどまるものではなく、人口構造や社会環境の変化を踏まえた総合的な再編であることを理解するとともに、その実現に向けた方向性と具体的な手法について、体系的に学ぶことができた。

3. 所感

本視察を通じて強く感じたのは、人口減少や都市の低密度化が進む中においては、都市機能を拡散させるのではなく、拠点へと集約し、それらを公共交通で結び直す「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方が、今後の都市政策の根幹となるという点である。

宇都宮市においては、LRTの導入を単なる交通施策としてではなく、まちづくり全体の軸として位置付け、駅東口の交流拠点整備と一体的に進めることで、人の流れとにぎわいの創出を実現している点が非常に印象的であった。

一方、西尾市においても、人口減少や中心市街地の活力低下といった課題は共通しており、今後は単発的な施設整備にとどまらず、拠点形成と公共交通の連携を一体的に捉えた施策展開が求められる。

特に、本市においては、既存の公共交通のあり方や拠点配置の再整理を行い、地域の実情に応じた「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方をどのように具体化していくかが重要である。

収支報告

項目	支出金額	備考
研修費	26,000 円	13,000 × 2
資料購入費	0 円	
旅費	129,140 円	
計	155,140 円	